

## 一般社団法人室内環境学会 2021 年度 第 2 回通常理事会議事録

日 時：2021 年 9 月 30 日（金）17:00～20:30

場 所：オンライン会議室

出席者

理事：山口一（理事長）、関根嘉香、中島大介、篠原直秀、水越厚史、鍵 直樹、三宅祐一、徳村雅弘、  
一條佑介、Tin Tin Win Shwe

監事：野口美由貴

オブザーバー：佐藤博、吉田俊明

事務局：橋本一浩（事務局長）、萬羽郁子（会計）、野村佳緒里、色摩 操

本理事会は総理事数 9 名のうち過半数である 9 名が出席していることから、定款第 34 条により成立した。また同第 33 条により、本理事会の議長は山口理事長が務めた。

議事次第：

1. 2021 年度第 3 回臨時理事会議事録 → 承認された。

2. 2021 年学術大会準備状況

吉田関西支部長より 2021 年学術大会の準備状況が説明された。新型コロナ感染対策のため、現地開催とオンライン開催の両方の準備を進めているとのことで、今後は大会長・理事長・副理事長・事務局長により協議を行い 10 月中旬には開催形式について決定する予定。現地・オンライン同時のハイブリッド開催の場合は 50～60 万円の赤字見込み。オンラインのみの開催となった場合に自治体への助成金申請を行えるのか今後、調べる予定。

理事会からはハイブリッド開催を希望する意見が多かったが、開催形式は大会実行委員会の意向を優先すると回答された。

3. 2021 年度委員会活動報告

学術委員会：従来を踏襲して活動した。今年度は 1 件に研究助成金を交付した。また、学会賞など新たな表彰制度の検討を行った。分科会への活動支援も例年通り実施。コロナ禍ではあったが、各分科会ともオンラインツールを活用して会議や勉強会を実施した（中島委員長）

出版委員会：今年も学会誌を 3 号発刊した。学会誌 1 号ごとに担当する「編集長」を新設し、分業化を進めた。Web 未公開の学会誌掲載記事を J-stage や学会 HP で閲覧できるようにした。また、J-stage の依頼により、池田副委員長が「室内環境誌の査読プロセス」について講演を行った（徳村委員長）。

広報委員会：例年通り、学会 HP、大会 HP、Facebook などの運営を行った。また、出版委員会と共同で学会誌掲載記事の HP アップロード作業を実施した（水越委員長）

社会連携委員会：2022 年学術大会にて開催を予定している国際シンポジウムの準備を行った（三宅委員長）

標準法認定管理委員会：例年通りの活動を実施したが、今年度は標準法および商標の申請は無かった（鍵委員長）

事業委員会：例年通り、永年賞の審査、他団体から後援・協賛依頼の審査を実施した。しかしコロナ禍のため、講演会の開催は見送った。講演会の会場変更、オンライン配信案など次年度の講演会開催のための検討を行った（篠原委員長）。

関西支部：京都で学術大会を開催する予定であり、例年開催しているセミナーは休止し、大会準備に注力した（吉田支部長）

九州支部：支部主催の研究発表会（第14回）は、コロナ禍のためオンライン開催とした。また例年実施している学校での実測調査も行った（佐藤支部長）

東北支部：郡山における学術大会を主催した。また、新型コロナ対策のための空気清浄機の活用法などを研究し、大会で成果発表を行った（一條理事）

室内環境辞典編集WG：朝倉書店から出版予定の「室内環境の辞典」について、著者を選定し、執筆依頼を行った。現在、7割強の原稿が集まっている（関根理事）

新型コロナウイルスWG：公共施設や交通機関の感染対策をテーマに調査を実施した（篠原理事）

#### 4. 2021年度決算報告（暫定）

萬羽会計より2021年度第9期会計決算（9月30日時点での暫定）が報告された。繰越金は前年度に比較し、100万円前後減少する見込み。例年は学術大会での収入が大きいが、2020年度は大会における新型コロナ対策の経費が発生したことが減収の大きな要因になったとのこと。

#### 5. 2022年度予算案

山口理事長より2022年度事業予算案が提案された。21年度の活動を踏襲し、また新型コロナウイルスの影響が続く見込みのため、22年度も収支マイナスの予算にしたとのこと。出席理事より「赤字予算を組むことは健全な学会運営といえるのか」、との意見が出されたが、この点について前理事長である関根理事より「豊富な貯蓄を会員へ還元することを目的に2018年度から学会誌を1号増加し、毎年赤字予算を組んでいる経緯がある」、と説明された。コロナ禍が終息した際に学会運営と予算構造を再考していくこととなった。2022年度事業予算案は全会一致で承認された。

#### 6. 2022年度事業計画案

山口理事長より2022年度事業計画案について、今年度方針を概ね継続する内容で提案され、了承された。

#### 7. 2022年度委員会活動計画

学術委員会：各分科会の支援、学生懇談会の支援、研究助成金の交付・制度の見直しを実施していく。また、学会賞など新たな表彰制度を検討しているので、次回理事会で提案したい。各分科会も例年通り、セミナー、勉強会、共同研究の実施を予定している（中島委員長）

事業委員会：コロナ禍で開催できなかった講演会を2022年から再開したい。会場を変更し、オンラインの併用も視野に準備していく（篠原委員長）

出版委員会：来年度も学会誌を3号発刊する。J-stageや学会HPに論文およびその他記事の掲載を行う（徳村委員長）

広報委員会：例年通り、学会HP、大会HP、Facebookなどの運営を行う。また、九州支部から要望されている支部HPの立ち上げにも取り組む（水越委員長）

社会連携委員会：2022年に国際シンポジウム開催を予定しており、台湾、韓国、ミャンマー、バングラデッシュの研究者へ講演の交渉を行っていききたい。新型コロナの状況が読めないため、オンラインの利用も視野に入れている（三宅委員長）

標準法認定管理委員会：例年通り、標準法および商標の審査・認定を行う（鍵委員長）

九州支部：例年通り、研究発表会を開催したいと考えている。また、九州支部のHP立ち上げに着手したい（佐藤支部長）

東北支部：今年に引き続き、新型コロナウイルス対策を見据えた空気清浄機の活用法などをテーマに共同研究に取り組んでいきたい。また、勉強会やセミナーの開催も考えている（一條理事）

関西支部：京都で学術大会を開催する予定であり、支部を挙げて準備を進める（吉田支部長）

新型コロナウイルス WG：飛沫感染・飛沫核感染（空気感染）・直接接触感染・間接触感染の各感染経路からの感染リスクに関して情報収集・評価を行う（篠原理事）

室内環境辞典編集 WG：引き続き、書籍「室内環境の辞典」の編集に出版社とともに取り組む。提出された原稿のチェック、執筆者への修正依頼を行う。2022年9月に刊行を予定している（関根理事）

#### 8. 2022年学術大会

2022年の学術大会は萬羽郁子正会員を大会長とし、東京で開催することとなった。

#### 9. 2021年度永年賞

篠原事業委員長より、2021年度室内環境学会永年賞の審査を行い、株式会社高見沢分析化学研究所および株式会社シナネンゼオミックへの授与を決定したと報告された。

#### 10. 新規入会者の承認

事務局より2021年6月～2021年9月の入会承認者25名（法人会員1社、正会員8名、学生会員16名）のリストが報告された。また、最近の入会希望者13名（法人会員2社、正会員4名、学生会員9名）のリストが示された。このうち法人会員2社のHPに記載されている主張に対して、理事より疑義が示された。審議の結果、入会を認めることとなったが、学術大会における発表内容を登録段階で確認することになった。

以上

署名欄

関根嘉香

印

山口 一

印

篠原直秀

印

徳村雅弘

印

鍵 直樹

印

水越厚史

印

三宅祐一

印

Tin Tin Win Shwe

印

一條佑介

印